

日本聖公会

大阪教区報



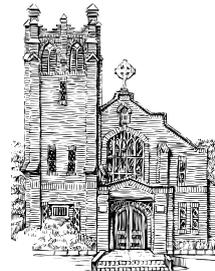
高槻聖マリヤ教会



聖ルシヤ教会



富田林聖アグネス教会



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局

〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
総務局長 司祭 内田 望

+++++ 第515号 2023年11月20日発行 +++++

私たちは今どこに立ち、どのような

姿でいるのでしょうか？

司祭 ジョイ 千松 清美

昨年のクリスマススイブ礼拝の教話を分かち合いたいと思います。

イエス様の誕生が私たちの喜びであるというの、どういふことを意味しているのでしょうか？おそらくイエス様の誕生の時、イエス様の将来のことは想像していなかったでしょうから、ヨセフとマリアの貧しい夫婦二人にとつては、可愛い我が子誕生の喜びにすぎなかったと思います。

私は TikTok というネットの動画サイトをよく見ますが、とくに子どもが出てくる動画が好きです。5、6才の男の子が母親の誕生日にこのように言いました。

「ママ、生まれてきてくれてありがとう。だって、ママが生まれて来てくれたから、僕も生まれてこられたんだよ。だからありがとう。ママ、大好きだよ」これを聞いて母

親は感動して涙します。もしかすると、イエス様もマリアにこのように言ったかもしれせん。「生まれてきてくれてありがとう。」それは私たちのイエス様への言葉でもあります。

イエス様は30歳ころ宣教活動を始めたと言われます。国中を旅して、神様の素晴らしい知らせを人々に話しました。また病人や苦しんでいる人々を慰め、病気を癒やしました。どこへ行っても、大勢の人々が群れをなしてイエス様をとりまいていました。ある日、イエス様は山に登り、腰を下ろして、人々を見渡しました。貧しい人、悲しんでいる人、身寄りのない人などがそこにはいました。また社会の隅に追いや

られ、差別され、無視されている人々もいました。イエス様は皆に言われました。「貧しい人たちよ、あなたがたは幸いです。神の国はあなた方のものだからです。パンと正義に飢えている人たちよ、あなた方は幸いです。やがて満たされるからです。泣いている人たちよ、あなた方は幸いです。やがて笑うようになるからです。暴力をふるわない人たちよ、あなた方は幸いです。すでに神と共にいます。あ



なた方は幸いです。神が哀れんでくださいます。純粋な心を持つ人たちよ、あなた方は幸いです。神を見ることができます。平和のためつくす人たちよ、あなた方は幸いです。神の子だからです。(画集「わ

たしの聖書」より抜粋)
イエス様の言葉は、聖書の時代も、今現在も、神様が共に居られること、神様がどんなに私たちを大切になさっているかを、常に新しく気づかせてくれます。時代や場所を超えて、新しい言葉として人々の間に浸透していきま

す。とても不思議なことですが、変わらない愛の神様が生きて、私たちの間で働かれるからだと思います。私は、クリスマス喜び祝う理由がここにあるのだと思います。イエス様の優しい言葉と愛が私たちの所に宿るように与えられていきます。私の内に宿るように他の誰かにも同じように宿っていることに気づくことを促されているように思えます。いま私たちは、どこに立って、どのような姿をしているのでしょうか。一人ひとりが考えるクリスマスでありたいと願います。

(石橋聖トマス教会牧師・東豊中聖ミカエル教会)

管理牧師



100周年記念連続セミナー

イサク 寒河江 研司

2023年、大阪教区成立100周年を記念して、過去・現在・未来の三部構成で連続セミナーが開催されました。100年の歩みを振り返り(第1回)、その歩みの中で賜ったものを見つめ(第2回)、そしてこれからの歩みを考える(第3回) 時が与えられました。このセミナーが、100年後、20年後の大阪教区信徒へのメッセージとして残せるようにとの思いで、「大阪教区信徒の皆さんへの手紙Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と題しました。

第1回は、4月23日(日)、川口基督教会で開催されました。「大阪教区の歴史を主に宣教の歩みを振り返る」と題し、西口忠さん、山本眞司祭、杉山修一司祭を語り手にお迎えしてお話をさせていただきました。

西口さんは、川口居留地の歴史にふれ、日本聖公会が組織成立された地であり、大阪教区が成立された地であること、そしてこの地での宣教師

たちの働きをお話くださり、山本司祭は、大西洋戦争禍や社会の様々な状況に振り回されながら信仰が守られてきた歴史のこと、大阪教区の特徴でもある信徒神学校や教会セミナーが盛んに行われ、その後の愛の園ワークキャンプやリーダーズブートレーニングキャンプなどを通して信徒教育を一生懸命してきたこと、木川田主教の時代には、日本社会だけではなく世界的な問題にも携わる活動がなされてきたことなどをお話いただきました。



り、博愛社原点は教会であるとお話しくだけさいました。

側垣さんは、三光塾の創設者である側垣基雄司祭の働きと、そして、聖書の言葉が創設の思いであったことをご紹介くださいました。それを今も大切にしていることを話されました。「すべ

この困難さも話されました。第3回は、10月9日(月)、大阪聖愛教会で開催されました。次の100年へ向かって歩みだすと題して、千松清美司祭、古澤秀利司祭、成岡宏晃司祭に対談していただきました。今宣教局などで考えられているビジョンをもとに、これから私たちは、どこへ、どのようにして歩いていけばいいのかといった課題についてそれぞれの思いを語っていただきました。説教などではなかなか聞けないような対談だったと思います。また、参加者からの質問も多数寄せられ、さまざまなお話を共有できた時間でした。

第2回は、5月27日(土)、大阪聖アンデレ教会で開催されました。大阪教区の100年の歩みの中で与えられた賜物のひとつである、学校、社会福祉施設と教会との関係について、桃山学院大学チャプレンの宮嶋眞司祭、博愛社前理事長の長野泰信さん、三光塾理事長の側垣一也さんにお話をいただきました。

長野さんは、博愛社の歴史と現在の働きなどをご紹介くださいました。そして、博愛社のシンボルが贖主教会である

この3回の連続セミナーで多くの方々にお話を伺うことができました。大阪教区の100年の歩みの中で、本当に多くの先輩たちの努力があったこと、その働きによって大きくなってきた諸施設の中心には教会があることを教えられました。このことをしっかりと心に留めて次のステージに向かって歩いていきたいと思いました。

(大阪聖三一教会信徒)

大阪教区婦人会 秋の修養会

はつとり けいこ
服部 慶子



二〇二三年十月十八日、秋の修養会に相応しい日和に恵まれ、博愛社地域小規模施設担当の、副主任勝原駿氏による迫力のある声が、新築された聖三一教会に響き渡りました。プロジェクトを用いて、児童養護施設における家庭的養育について話を進められました。主な入所理由として、昭和時代とは異なり、特に母子家庭の実母による虐待が多く、社会が母子を孤立させている現状があるとのことでした。

この度の地域小規模施設は住宅地の中にあり、大阪聖三一教会の敷地内に建てられた二階建ての施設は「つむぎの家」の名に相応しい建物であり、二十四時間三百六十五日職員の方々と過ごす環境の中で、日曜日には礼拝に参加していると聞き、胸をなでおろす思いがいたしました。

安心安全と家庭的な暮らしを目標に、職員の方々が日々努力され、色々な経験を通して、子供達の成長を見守る事は並大抵のことではないと思います。

現在児童六名、職員は五名が交代で住んで居られ、食事も職員が手作りで身分相応の生活を目指して努力されており、何より博愛社の歴史と豊かな経験から生み出された知恵と志を持って取り組んでおられます。本日参加の方々からは、離職率や、生活の中で愛情をそそぐ博愛社ならではの工夫は何かありますか、卒



ウトロ平和祈念館で副館長の説明を聞く参加者

業生のアフターケアは等質問され関心の深さを感じました。礼拝後の教会の皆様による手厚いおもてなしは、御抹茶を立て、デッキにまでテーブルを置かれ秋空の下談話を楽しみ、会館でも沢山のお茶や

初参加の人権セミナー

十月二日と三日、京都で開催された日本聖公会人権セミナー2023に参加しました。北海道教区以外の十教区から三十一人とカトリック(正義と平和協議会)から信徒一人が参加されました。プログラムは事実上三つあり、①「日元牧師性暴力事件にお

ダビデ 寺本 和泉

お菓子を用意下さって歴代の司祭婦人を囲んで楽しいひと時を過ごせました。大阪聖三一教会、高槻聖マリア教会、川口基督教会、大阪聖パウロ教会、城南キリスト教会、守口聖オーガスティン教会のミ

していただきます。①は大岡左代子司祭がパワーポイントをつかって説明されました。二十年あまりの経過が複雑であるゆえに、だれがとりまとめでも大変だったと思われませんが、説明は、誠実に、丁寧に、深く考えられたものだと感じました。高地敬 京都教区主教からのコメント、質疑応答、わかちあ

ニバザーも教会建物をフル活用して行われました。出席者は教役者九人、信徒九十五人、席上献金十一万四千百十円、皆様のご努力、御心に深く感謝致します。在主任(石橋聖トマス教会信徒)るヒントもいろいろ与えられたと思います。②については「日本語版策定に向けて」ワーキンググループで検討中という段階のようです。たしかに大切な課題ですが、わたしの感想では、英語版の内容を鵜呑みにせず、大いに批判的検討をすべきとおもわれました。③についてはわたしは四回刊の見学でしたが、今回は新刊の「ヘイトスピーチとはなにか 連鎖する民族差別犯罪」(角川新書)と「ウトロ・強制立ち退きとの闘い」(東信堂)が参考になりました。わたしのささやかな体験では、信仰生活と人権活動は深く調和する関係であり、相互に支えあう関係にあります。教会の進歩と平安を心から願ひ、祈ります。(高槻聖マリア教会信徒)

ブラジル聖公会宣教シンポジウムに参加して

(9月4日〜20日)

司祭 バルナバ 小林 聡

○日本人宣教100年

1923年にブラジルにおける日本人宣教が長野県出身の伊藤八十二大執事によって始められ今年100年目を迎えます。

世界の日系人40万人の内約200万人がブラジルにおられるといわれています。ブラジルでの日本人宣教は、移住者の

お家を一軒一軒尋ね歩き、共に汗を流して働き、どんなに苦労していても心の養いを忘れず、神が共におられることを祈り覚えた出来事でした。

サンパウロにある日本人移民資料館に掲げられていた絵を眺めながら、当時の様子を思い巡らしてきました。

伊藤八十二先生が始められ



たサンパウロの聖ヨハネ教会訪問、9月7日〜10日の宣教シンポジウム、聖三一主教座聖堂での記念礼拝、リオデジャネイロ教区教役者懇談会、サンパウロ教区主催神学講座、パラナ教区聖ルカ教会等での100年記念礼拝等に参加させて頂きました。

○宣教シンポジウム

ブラジルは移民の国です。日本人宣教の歴史を振り返り、日系人の多様な人生から学び、またブラジルが今直面している難民、移民、移住者との共生の課題を分かち合い、さらに過去から現在にかけての植民地化の影響とその克服について共に学びました。

シンポジウムでの中心テーマは多民族宣教でしたが、多様な民族が共存する中で、いかに共生していけるのか、という普遍的なチャレンジについて分かち合われました。私が発題した内容は「神様はマインノリティーの感性を通して愛を実践される」というものでした。特に100年前の関東大



聖ヨハネ教会の日系人のみなさん

震災の時、朝鮮人虐殺が起り、朝鮮半島から留学に来ていた張準相青年は奈良キリスト教会の吉村大次郎牧師に命を助けられ、そのことがきっかけで牧師になられました。

以来大阪教区における朝鮮人伝道、そして聖ガブリエル教会、又多民族多文化共生をめざす聖公会生野センターや生野地域の保育のための博愛社こひつじ乳児園が始められたこと。また、2014年

日本聖公会管区総会「反ヘイトクライム宣言」、聖公会青年による難民支援NPOメタノイア、博愛社児童養護施設の子童で聖贖主教会の日曜学校に参加している児童が、自身の在日としてのアイデンティティーを肯定的に受け止めるに至った出会いの物語を



神学講座「聖公会のアイデンティティー」

お話ししました。

ブラジルにおける日本人宣教について発題された川野カルメン司祭は日系3世で、日本に留学されていた時の経験から、聖職の道を歩まれ、現在はサンパウロ教区神学担当、また日系人伝道担当をされています。ポルトガル語、日本語、英語を駆使され、私の日本語もすぐに訳してください、献身的な姿勢で終始温かく支えて頂きました。特に川野司祭ご自身が思っておられる日系人として生きる意味を、マインノリティーとしての感性と、他者に仕えることにあることを滞在中、お話しくださり、大切なメッセージとして聞くことが出来ました。

今から3年前にサンパウロ教区の日系人宣教担当者である玉置幸子執事から、日系人一世のために日本語での説教を希望する申し出があり、大阪教区の教役者を中心に、毎

週説教をブラジルに送り、月1回動画で説教を送らせて頂いております。

○ブラジル聖公会からの学び

サンパウロ教区神学講座での9月のテーマは「聖公会のアイデンティティー」でした。講師のエディアス司祭は、聖公会の特徴についてワークショップを行いながら、ブラジル人自身の多様さについても触れられました。さらにブラジルにおける聖公会はマインノリティーであり、それはさながらブラジルにおける少数民族、マインノリティーと重なる部分があることをお話されました。大多数を占めるカトリック教会、そして非常に力を持っているエバンジェリカル教会を見る時、ブラジル聖公会はより包括的で多様で、一人ひとりの賜物を大切に、対等な関係性を大切にしてきたという意味で、マインノリティーの声そのものを生きている教会であるという印象を受けました。セーザル主教をはじめ温かな交わりに心より感謝いたします。

(聖贖主教会・大阪聖パウロ

教会・高槻聖マリヤ教会 牧師、博愛社チャプレン)

生野・猪飼野地域 フィールドワーク
 —大阪コリアタウン歴史資料館とともに共生の歴史をめぐる—
 ニコラス 丹田 則史

10月16日(月)午前10時から、コロナ禍前より数年ぶりにフィールドワークの時を持ちました。晴天秋晴れの中、大人9名子供2名の参加によりJR鶴橋駅に集合し途中、張本栄司祭が拘留され官憲によって拷問を受けた、鶴橋警察署の跡地等を巡り、御幸森の商店街に隣接した場所に、この4月にオープンした「大阪コリアタウン歴史資料館」を訪れ、個々見学の時を持ちました。

会食出来ました。感謝です！秋の行楽シーズンということで、平日でしたが商店街には人が多く、近年の韓流ブームもあって大変な盛況ぶりを感じられました。昼食後には、希望者数名が再度資料館にて、呉総主事による展示されているパネルの解説に耳を傾け、観想の時を持ちました。また、王仁博士の和歌である『咲くやこの花』で有名な碑文があり、仁徳帝を祭神とする御幸森神社も秋の祭礼で慌ただしくしていたために訪れることが出来なかったのですが、新たに出来た今回の資料館などと共に、話題にもなっていて大人気のコリアタウンへ教区の皆様方にも是非お出



大阪コリアタウン歴史資料館

かけただきたいと思えます。なお歴史資料館には、おしゃれなカフェも併設されており、ゆつくりひと時を過ごすのにも、いい場所かな？と、思ったりしました。終わりにりましたが、今回のテーマにもある『猪飼野』という地名は、地図上から姿を消して久しく地名として無くなってしまいました。生野と東成区に跨る猪飼野は、朝鮮半島や済州島に由来をもつ人たちの心に深く刻まれています。(聖ガブリエル教会信徒)

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」第2もこれと同じように重要である。「隣人を自分のように愛しなさい。」律法全体と預言者は、この2つの掟に基づいている。(マタイ 22・37-40) ここ約3年間、私たちは新型コロナウィルスと格闘して参りました。礼拝を休止する、陪餐を受けられない、礼拝前には体温を測り、手指の消毒をする、一種陪餐になった、マスクをして礼拝に参加する、陪餐前にも手指の消毒をする、リモートで礼拝に参加する、病床のお見舞いにもいけない、施設に入っておられる方々にもお見舞いいけない等々、今まで経験したことのない時間を過ごして参りました。今も収束したとは言えません。お気をつけください。あれもできない、これもできないというつらい時を過ごしてきました。

しかし、その一方で、気づかされたことも沢山あったのではないのでしょうか。世界中の誰もが等しくウィルスに感染する可能性があるように、誰もが助け合わなければならぬことに気づきました。自分一人がどう行動しても、あまり関係ないと考えてはいけません。関係のない人などの努力が、安全・安心の道を開きました。感染症の拡大は、私たち人間がいかに脆弱な存在であるか、弱い存在であるかを教えられることでした。私たちが、いかに他者の配慮ある行動のおかげで生かされているかということに気づかされました。医療関係者だけでなく、宅急便、金融機関、スーパーで商品棚に並べらる人、レジの人、日ごろ感謝されることの少ない人によって、社会生活が維持されていることに気づきました。

私たちが力を合わせて、周りの人に配慮して歩むと、家族や社会、教会においてこれ



羊だより

新型コロナ感染症下で学んだこと

大阪教区関係教役者
12月逝去者記念聖餐式
 &
大阪教区成立100周年記念
C・M・ウイリアムズ主教を憶えて

*説教者：司祭 岩城 聰
 12月13日 (水) 10:30~

- 1日 宣教師 エディス・イライザ・ソープ (1930英)
- 2日 主教 チャニング・ムーア・ウイリアムズ (1910米)
- 4日 司祭 テモテ 山本 登 (2009)
- 13日 司祭 ジョン・キャリー・アンブラー (1946米)
- 16日 司祭 尾形 虎三 (1945)
- 17日 司祭 アーサー・ラザフォード・モリス (1912米)
宣教師 エミリー・ビショップ・ボウルトン (1926英)
- 18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ (1888英)
- 19日 司祭 ダニエル 小池 虔二 (2014)
- 22日 伝道師 清田 海一郎 (1904)
司祭 近重 利澄 (1934)
- 27日 司祭 ヘンリー・レナード・プレビー (1942英)
- 28日 伝道師 大塚 惟明 (1928)
- 29日 司祭 マルコ 伊墻 八東 (1978)
- 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティアー (1970英)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分
 から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかか
 わらず、どうぞ自由にご参加ください。

〆 羊だより (続き)

までとは違ったお互いに支え
 合う道を見つけたことができ
 ることを学びました。教会も
 正直、大きなダメージを受け
 ています。ますます、みんな
 で折り合い、助け合い、協働
 していく必要があります。私
 たちは、最初の聖句に示され
 ています、「神さまへの愛、
 隣人愛」という信仰の原点に
 立ちたいと思います。

(主教アンデレ)



【常置委員】会報 10/4
 第16回(定例)

I. 主教報告及び諸報告

● 12月3日(日)、聖ルシヤ
 教会が創立50周年を迎え
 る。

● 10月17日(火)、宣教協議会・
 大阪教区参加者の2回目の
 集いが開催される。

● 10月22日(日)に聖贖主教
 会で、高槻聖マリヤ・大阪
 聖パウロ・聖贖主の3教会
 合同礼拝を行う予定。

● 川口基督教会で「セーフ
 チャーチを考える会」が発

足した。

【宣教局】

● 10月2日(月)〜3日(火)
 に京都で開かれた人権セミ
 ナーに、牧会支援委員会委
 員が参加した。

● 来年の人権セミナーは、大
 阪で開催される。

【財政局】
 ● 3年を用途としていた「牧
 会献金」の今後について、
 財務委員会で検討する。

II. 協議事項と主教諮問
 ● 教区一元化された教会に関
 する教区規則変更の手続き

のため、行政書士の三浦基
 子さん(聖三一信徒)と契
 約することを了承した。

* 11月教区会閉会後に設けら
 れる「話し合いの場」につ
 いて協議した。

* 教区会聖餐式の信施先を、
 カトリック難民移住者支援
 「シナピス・ホーム」とす
 る。

* 芦屋聖マルコ教会から出さ
 れた大阪教区墓地埋葬申請
 (3人)について、了承した。

* 人事に関する主教諮問を共
 有した。

* 教区事務所職員給与に関し
 て協議した。

10/17
 第17回
 (臨時)

洗 礼

堺聖テモテ教会 (10月8日)

- マタイ 高良 誠徳
- テモテ 溝口 正
- マリア 溝口 明子

堅 信

堺聖テモテ教会 (10月8日)

- マタイ 高良 誠徳
- テモテ 溝口 正
- マリア 溝口 明子

逝 去 者

堺聖テモテ教会

- サムエル 水田 眞一 (9月24日・96歳)
- 芦屋聖マルコ教会
- マルコ 伊藤 浩一郎 (9月7日・87歳)
- 松井 裕 (9月12日・96歳)

川口基督教会

- イサク 稲田 一郎 (10月6日・75歳)
- エリザベツ 川島 徳 (10月11日・89歳)

高槻聖マリヤ教会

- エリザベツ 上田 美和 (10月19日・87歳)

主教巡回予定 (12月)

- 3日 聖ルシヤ教会
- 10日 川口基督教会
- 17日 大阪聖三一教会
- 24日 聖ルカ教会
- 31日 未定



魂の平安をお祈りします